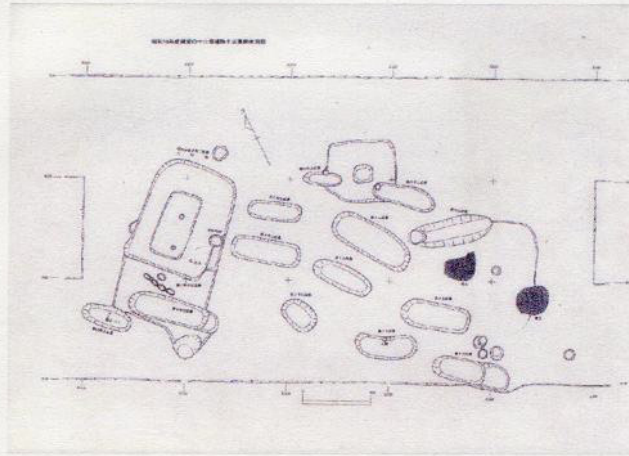


十三塚遺跡

高館丘陵の東側に突き出している野田山丘陵から、さらに南東部に分岐した小豆島丘陵上に立地しています。東北本線名取駅の南西2.5kmの地点に位置し、名取市手倉田字山及び愛島小豆島字塗屋一帯に所在します。

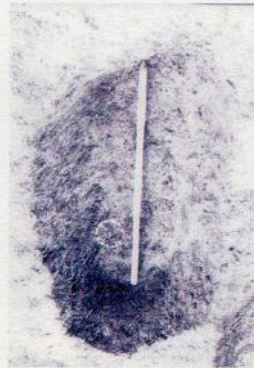
現在の十三塚公園を軸としてひろがる丘が、この遺跡にあたり、弥生土器だけでなく縄文土器も多く出土する大規模な複合遺跡となっています。

これまでの発掘調査で発見されている弥生時代の遺構には、住居跡や土壌墓などがあります。また、この遺跡で出土している弥生土器の中には、西日本の弥生前期の土器に類似する「遠賀川系類似土器」や「十三塚式」と呼ばれる東北地方南部で弥生中期末の標識として著名な土器があります。特に「十三塚式」の独自のデザインからは、この地方の生活文化の成熟度の高さを感じることができます。



II-3-5

土壌墓群の実測図 II-3-5



II-3-2-b

土壌墓（成人の遺体を埋葬した墓）の様子

II-3-2-b



II-3-3

見つかった土器の実測図 II-3-3

西野田遺跡

高館丘陵から東側に突き出している野田山丘陵の西部に立地しています。東北本線名取駅の西南西2.8kmの地点に位置し、名取市愛島塩手字西野田・拾石中・拾石下に所在します。

この遺跡からは、昭和47年に行われた発掘調査で、旧石器時代～平安時代の遺物が出土しています。弥生時代の遺物は、前期から後期の時代全般にわたる各時期の弥生土器や石器が、遺物包含層などから出土しています。この時代の住居跡の発見こそないものの、当時の人々が西野田遺跡において生活を営んだ可能性が指摘されています。

II-4-1



II-4-2

見つかった遺物の実測図
太型粘石斧（左上）
打製石斧（右上）
石包丁（中）
紡錘車（下）

II-4-2



II-4-3

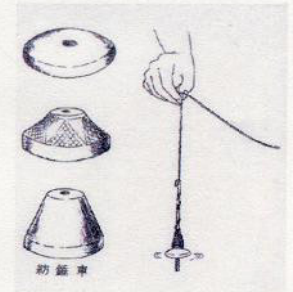
石斧頭

II-4-3

紡錘車

糸をつむぐ道具

II-4-4



II-4-4

紡錘車の使い方

II-4-4 H11Y-7



昭和50年頃の十三塚遺跡の風景

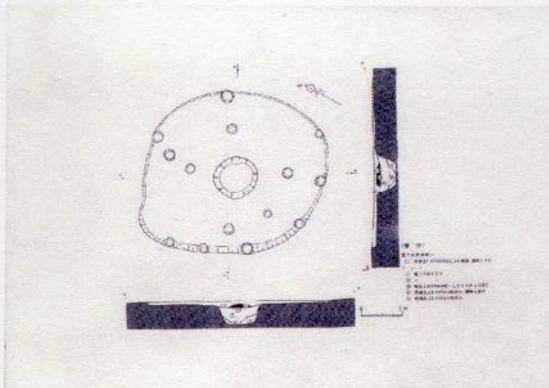
II-3-2-a



II-3-1

住居跡のようす

II-3-2-c



住居跡の実測図

II-3-4